

普代村レポート

はじめに

この旅は、鈴木遥日に誘われて行くことになりました。私たちは、もともと同じ環境学部で草木や自然が好きという趣味も合い、夏休み前も農業体験やワークショップへ一緒に参加するような仲でした。今回普代村へ訪れたのは、「アーバンパーマカルチャー」のワークショップに二人で参加し、そこで鬼東さんと鈴木が知り合い、普代村へ来ないかと誘われて行くことになりました。

私は地域おこし協力隊についての知識がなく、向こうへ行って何をやるかなどの具体的な説明もなかったため、最初は本当に安心して行っていいものなのか戸惑ったりもしていました。しかし最終的には、普代村やそこに住む人たちが大好きになり、また行きたい！！と思えるような貴重な夏を過ごすことができ、とても楽しかったです。そんな普代で過ごした出来事などを、詳しく紹介して行きたいと思います。

出発

旅は 8 月 31 日早朝、6 時半に家を出るところから始まります。はじめての 18 切符を買い、鈴木と合流したら、JR の各駅だけを 12 回乗りついで、15 時間かけて久慈駅へ向かいます。一本でも乗り過ごしたらたどり着かない…そんな計画でドキドキしながら電車で揺られました。長くてきっと疲れるだろうなと思っていた電車も、友達と一緒にだと、たくさん話せたり、寝ても起こしてもらえたりしたため苦になりませんでした。宇都宮、仙台、盛岡など、主要な駅にひとつひとつ降り立てたのも旅の醍醐味を感じました。それぞれの駅で食べれる地方名物の駅弁も最高です。久慈駅に近づくにつれて人が減り、肌寒くなっていきました。そして1日かけてやっと久慈駅へ到着。

宿泊施設へ

久慈駅へ着くと鬼東さんが迎えに来てくれて、宿泊施設へと向かいました。道へ行く途中、電灯が無く反射板のみで車が通った後ろを振り返ると真っ暗なことに驚きました。東京ではまず車が通るような道には街灯があって、星を探そうにも一苦労です。宿泊施設へ着き、中に入ると木造のおうち！広々としていてお風呂もキッチンもきれいで驚きました。途中虫が発生したり、冷蔵庫と冷凍庫を間違えてせっかくもらった野菜を腐らせたりとハプニングもありましたが、とても快適に過ごすことができました。

植物達がのびのびと生える巨大な畑

次の日、朝鬼東さんに迎えにきてもらい、丹治さんの家へと連れて行ってもらいました。着くとそこには今まで見たことのないような巨大な畑が！！！！シソが畑の境界をなくすようにあらゆるところに生えていたり、自分の顔よりも大きいサイズのお花が咲いていたり、ネギが生い茂っている中によく見るとミョウガが隠れていたり、と、ひとつひとつ大興奮しながら畑を見てまわりました。今までの畑のイメージは、もっと種類ごとに分かれていて、区画がはっきりしているイメージがあったのですが、ここへ来て覆されました。畑の植物は自由にのびのびと生えていて、野菜や実もとても大きかったです。

畑の持ち主、セツさんは、その畑と同じようにおおらかな人で、私たちが普代にいる間ずっと気にかけてくれ、とても優しくかったです。実がなっている野菜があったらほとんど「はい！これ持って帰りな！」と言っておすそわけしてくれて、袋一杯に野菜を詰めて持って帰りました。

数日、丹治さんの家にお世話になりましたが、そこでセツさんがご馳走してくれた、畑で採れた野菜を使った料理がこれまたおいしい。一緒に作り方を教わりながら天ぷらを料理したりもしました。野菜そのもののうまみがでてくる料理ばかり頂き、毎回お腹がはちきれそうになるまで食べてしまいました。山で採れたての松茸のおうどんなんて、なんてリッチなんでしょう…

この素晴らしい畑で、農作業も体験させていただきました。一番面白かったのがジャガイモ掘りです。土に隠れて見えないジャガイモが、掘ればほるほどどんでくる！！芋づる方式って言葉の由来はここからだよ、と言われて、なるほどと感心しました。スーパーで売ってるようなジャガイモの3倍くらいの大きさのものもあり、驚きと楽しみでずっと掘りつづけてしまいました。他にも、うねを作って春菊の種をまいたりもしました。種一つまくのでも、セツさんはプロの手つきで、まんべんなくばらけさせて均等にまいていて凄かったです。私たちや鬼東さんも一緒にまきましたが、ムラが出来てしまってセツさんのようにうまくはまけません。自分たちが蒔いた種がどう育っているのか気になり、とても楽しみです。

染物体験

ほぼ普代村でしか体験できないという、『鉄山染め』。私も染物には興味があったもののまだ経験したことがなく、普代村へきてできるとは思っていませんでした。ハンカチを輪ゴムで止め好きな模様を作り、これを染めたら一体どんな形に出来上がるだろうか、とわくわくしながら作りました。ハンカチを煮て、洗って、輪ゴムを取って、また洗って、アイロンをかけて、そうしてやっとできたハンカチは、綺麗な真っ青に染まりました。一人ひとり、模様も色の濃さも全く違い、世界で一つしかないオリジナルのハンカチが出来上がりました。体験は、私たちの他にも3人

の方が一緒に体験したのですが、すごく 3 人とも仲が良くて面白く、また気さくに話しかけてくれたので、より一層楽しく染物体験ができました。

神経メ

金子太一さんによる、「神経メ」を見学させていただきました。神経メは変わった手法で、技術も必要であり、できる人が東の方では二人しかいないそうです。魚を脳死させて血を取り出して身と混ざらないようにし、数日寝かせて熟成させることで、普通の締め方よりも格段においしい魚になるということです。実際にやっているところを見ていましたが、一匹一匹めるのに手間暇かかり、これを毎日入荷してくる魚を全部一人でやるとなると、相当大変な仕事量だなと思いました。何故このような大変な神経メをやろうとしたのですか？と尋ねると、普代村に何か“ブランド”を作りたかった、と答えました。村の事を思って、多くの人に来るように、注目してもらえるように、自分のためではなくてただ自分の生まれた村のために神経メを選んだ金子さんが、とてもかっこよく見え、そして尊敬しました。就職には不安がたくさんあるのですが、自分にもこんな何かのために、誰かのために、生きがいになるような仕事を見つけないかと強く思いました。

他にも参道の山を登って朝日を見たり、クルージングをしてウミネコに餌をやるという初体験をしたり、普代水門へ行って津波の爪痕を見に行ったりなど、あらゆるところに連れて行っていただき、そのたびに感動や喜びやらで大はしゃぎだったのですが、書ききれないので次は質問事項に答えていきたいと思います。

受け入れ側の支援について

宿泊施設の利用や、クルージング無料、食事も畑で取れたものをご馳走していただいたり、おすそ分けをもらったりなど、普代村での生活や金銭面的な支援は大変充実していたと感じます。また移動も鬼東さんがすべて車に乗せてくれたため困りませんでした。

ただ、私たちの計画のなさといきなり伺ったせいもあるのですが、どこへ行くか、何をするかなどノープランで、すべて前日当日などに決めたので準備や持ち物が足りなくなっていました。たとえば、登山用の靴が家にあるのですがもってきていなかった為畑用の長靴で登り少し歩きづらくて危なかったり、また染物体験が出来るなら染めたい布・衣類をもっと家から持ってくればよかったと思いました。それから神経メの魚も寝かせて熟成させないとおいしさが出ないということで頂けなかったのが残念でした。

ですが、これらの点は逆に次回また来たときに達成しよう！とも思えたので良かったのかもしれない。もっと行く前に普代村について調べて、鬼東さんと話して

おけばよかったなと反省しました。

次ぎ来たらしてみたいこと

まずは丹治さんの家でお豆腐づくり！！冬に来たら出来るということで、ぜひ体験したいです。豆腐を作ると同時に豆乳やおから、湯葉も出来るなんて…魅力的過ぎます。

それから、ほかの畑も見てみたいなおもいました。それぞれの家の畑に工夫やこだわりがあるように思うので、見比べてみたいです。じゃがいも堀りにすっかり夢中になってずっとやっていたのですが、やはりいろいろな野菜や花や穀物にふれ、知っていきたいです。

今回失敗したなと思ったのは、音楽病の私にかかせないアイテム、ギターを置いてきてしまったことです。長旅には邪魔だし、そんなに弾く機会もないだろうと思いついてきませんでした。しかし10日間ギターから離れるのは辛かったと同時に、海や駅など、ここで弾き語りしたい！！と思えるような場所がいくつもありました。丹治さんの家や鬼東さんにも、感謝の気持ちをこめて一曲歌いたい…と思ったので、次回は絶対持ってきます。

また、今回子供に全く会わず、村に子供がいないイメージがとても強かったです。しかし行くところや時間が、子供が来るようなところでは無かったためのようなので、次は出来たら学校など、普代の子供たちともぜひふれあえるところに行ってみたいです。

宿泊場所の愛称をつけるなら

『ふだいっこ荘』普代村へ来た！今日から自分も普代の子。という感じがするなと思いました。

『ふれあいの森』大勢の大学生が集って、初対面の人ともふれあってみんなで仲良くなり、そしてなにより普代村の人とふれあう、そんな意味での“ふれあい”と宿施設が木造で出来ていて、また広間の天井が高くて森のイメージだなと思い、つけました。

普代村の印象は

普代村の人は、みんななんだか明かるくて、人懐っこいように感じました。行く先々でいろんな人が声をかけてくれて、そして「ぜひ普代村に住もう！」という強い一体感が感じられます。最初は、もっと東京から来たと言ったら、何しに来たんだとか、所詮東京の人なんて…などと、悪い印象があるのではないかと思いましたがそんなことはなく、むしろよく来てくれた、と歓迎されたので嬉しかったです。普代村の生活は、全て自給自足で、自然と一緒に住んでるという感

2015 年 10 月 1 日
武蔵野大学 環境学部 環境学科 環境学専攻
1435026 小川侑紀

じでした。普段東京に住んでいると感じられない自然の恵みを、こっちはあたりまえの日常生活で感じる事ができたと思いました。とにかくまた来てみたい、という気持ちが大きいです。こんなに楽しめるとは思っていませんでした。鬼束さんをはじめ、丹治さんや金子さんなど、お世話になった方々ともう一度会いたいのと、そして新しい普代村をまた知っていきたいです。5日間、大変お世話になりました。ありがとうございました。